

平成29年度

町政執行方針

新年度がスタートしました。

平成29年妹背牛町議会第1回定例会において、寺崎町長が新年度の予算を決定するとともに、今年のまちづくりの方針である「町政執行方針」を表明しました。今月はこの方針などについて、皆さまにお伝えします。



基本姿勢

我が国の国内経済は緩やかな回復基調にあるものの、消費や設備投資に力強さを欠いており、デフレ経済からの脱却が進まない状況にあります。

また、超高齢化社会の中で年金、医療をはじめとする社会保障制度の確立や東日本大震災、熊本地震、台風被害などからの一刻も早い復興・復旧など国民生活

に大きく関わる様々な問題を早期に解決していかねければなりません。

さらに道内農業にも大きな影響があると予測されているTPP協定は、アメリカの離脱宣言によって混乱を深め、先行き不透明の様相となる中、国内対策の強化が急務とされています。

本町においては、こうした背景のもと厳しい財政事情の中で少子・高齢化社会への対応や地域活性化の施策をはじめ、多様化する行政需要に適切に対応することが求められており、財政状況を踏まえながら活力ある地域づくりをめざし「妹背牛町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を基本にその実現に努力してまいります。

本町の基幹産業である米づくりは、高品質米の生産により高い評価を得ておりますが、不安定な米価や米生産調整の見直し等厳しい農業情勢の中、低コストで安心・安全な品質の農産物生産を求められており、さらに安定した農業経営の確

立が必要となっておりま

商工業においては長引く地方経済の低迷、個人消費の停滞・流出など厳しい状況が続いており、地域内消費の向上対策が重要となっております。

この状況をいくらかでも打開すべく、「町民が主権者」の理念のもと、さらに鋭意努力し、町民と協働したまちづくりの精神を大切にしながら、「人輝き、笑顔あふれるまち・もせうし」のまちづくりに向け、全身全霊を傾けて町政執行にあたっていく決意であります。町民の皆さんとともに着実な歩みを進めていくため、どうか一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。





町長 寺崎 一郎



重要施策

活力と賑わいあふれる産業のまちづくり

農業振興について

昨年は、融雪が早く育苗等の春作業は順調に行われましたが、田植え後6月以降の低温・日照不足により、分げつ発生が緩慢となり、不作が非常に心配されました。一転6月下旬からは好天や日照時間に恵まれたことなどから生育が回復し、8月の度重なる台風の影響も本町では一部に浸水があったものの被害が少なかったことから、米作況指数が102、単収は561キロとなり、6年連続、平年作以上の収量を確保することが出来ました。

しかし、満足するまでの作柄とは言えず、本年は量・質ともに7年連続の豊作を期待するところであります。

一方、全国的に飼料用米への転換や生産調整の深掘りが進み、2年連続過剰作付けが解消され、

米価は前年比約9%の上昇になりましたが、平成30年度から国が米の生産調整や米の直接支払交付金を廃止することにより、農業経営への影響が非常に懸念されるところであります。

また

昨年12月にTPPの国会承認、関連法案が成立しましたが、米国新大統領が就任後、「TPPからの永久離脱」を表明し、TPPの行方は混沌とした状況に陥りました。現在、米国との2国間交渉が囁かれておりますが、EPAを含め、TPP以上の農産物輸入に関する譲歩が懸念されており、今後の展開を注視していかねければならないと考えています。この影響は、本町の基幹産業である農業にも大きな打撃を与え、地域社会にも混乱をもたらすことが予想されております。より慎重な対応を求めるとともに万全なセーフティネットの構築や若手農業者が希望の持てる農業施策を早急に実施するよう関係機関と連携を図り、国に強く要請

してまいります。

本

町におきましては国営農地再編整備事業等による生産基盤の強化、RTK-GPS普及リリース事業の支援やロボット技術等IT農業の推進を中心として、次の柱により農業政策を展開してまいります。

生産基盤について

昨年、国営農地再編整備事業は、一定の予算が確保され、第2工区(10区)の面的整備が完了し、事業進捗率は90.8%まで進みました。本年は、平成28年度補正において予算が大幅に確保され、当初予算はまだ決定しておりませんが第1工区(6区)及び第3工区(5区)の面的整備が完了する予定となり、全事業完了の道筋がはつきりとしてまいりました。

また、道営農地整備事業による「妹背牛東地区」、「桜川第2地区」、「千秋第2地区」及び「大鳳永宮地区用水路」についても予算が確保され、予定されている工事は順調に進むことが予想

されております。早期完成に向けて安定的な予算の確保ができるよう、関係省庁に強く要請し、より効率的で生産性の高い農業の展開を目指し、土地基盤整備の強化に努めてまいります。

「IT農業の推進・普及について

平 成27年4月に設立された「妹背牛町GNSS研究会」は、現在50名弱と順調に会員数を増やしており、RTK-GPS均平システムの個別実習をはじめ、田植機に最新の自動操舵システムを搭載し、実演を行うなど多くの方々に研修していただいております。

良質・良食味米の安定生産と生産調整推進対策について

本 年産米の需要量情報報告が減少し、北海道では1.1%の減量になり、本町においても水稲作付面積が昨年に比べ0.4%減の2,185haとなりました。また、国が示す自主的取組参考値（いわゆる深掘り）を採用せず、生産数量目標に

より配分し、既に各農家に通知されています。一方、産地交付金の各市町村への配分方法が見直される予定でありませんが、迅速な情報提供に努め、適格な生産調整を進めてまいります。

国の米配分は平成30年産米から廃止されますが、今後は特に産地間競争が激しくなることが予想されています。昨年からタンパク値6.8%以下に限定した米や真空包装に拘った「北彩香プレミアム」、氷温熟成させた「頂寒熟米北彩香」の2種類を商品化し、ふるさと納税の返礼品や温泉のお土産等としてブランド化を進め、全道トップレベルのクリーン米生産地として、収量及び良質・良食味米の安定生産を継続し、主食用米の主産地としての地位向上に努めてまいります。

活力ある農村づくり及び担い手の育成について

昨 年開催しましたJA北いぶき女性部・青年部との懇談会における意見や提案を参考にしながら、

活力ある農村づくり、地域づくりを目指し、現在、地域おこし協力隊員とともに町の特産品であるハーブ焼酎のリニューアルを商工会等の助言をいただき検討、本年完成させる予定であります。また、昨年実施しました町単独の婚活事業を本年は継続拡大することを検討しております。さらに農産加工品の開発や冬のイベント開催等についても各関係機関との連携や町民の皆様のご意見をいただく中で検討・展開していきたいと考えております。農業担い手の育成については、北空知農業後継者対策育成支援協議会による研修や各種事業、北海道農業担い手育成センターにおける新規就農者の募集や法人化研修等関係機関との連携を図り、将来の地域農業の担い手を確保するよう努めてまいります。



商工業の振興について

本 町の商工業については、地方経済の低迷、個人消費の停滞など厳しい状況が続いており、地域内消費の向上対策が重要であります。商店等の安定経営のための支援対策に各種資金融資に係る保証料の補給支援、小売店舗等設備支援事業を継続してまいります。

また、「妹背牛町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、移住定住支援事業、子育て支援事業などの商工会商品券での支援事業を継続し商店の活性化を図るとともに、町内企業等に勤務されながら町外に居住されている方々に移住を考慮していただくため、公営住宅の建設、町有地の宅地分譲など人口減少を踏まえた事業を実施してまいります。さらに、商工会事業の住宅等環境整備支援事業、買い物おもてなしタクシー助成事業、モスピーカードのポイント贈呈支援を継続してまいります。

今後も商工会の各部会が



新春恒例の大抽選会



収穫感謝祭での餅まき



コープさっぽろ会員の田植体験

連携する中で、町の活性化に結びつく事業に対し、積極的に支援をしていく考えであります。

観光の振興について

誘 客施設であります妹背牛温泉。ペペルは、

昨年、温泉療養効果実証調査事業を終了し、3月に温泉療養効果実証調査報告会と温泉フォーラムを開催いたしました。公共温泉のブームが去った今こそ源泉かけ流しの妹背牛温泉。ペペル泉質を医学的見地から、その療養効果をセールスポイントに営業活動の強化に努め、安定した経営を目指してまいります。

カーリングホールにつきましては、大会開催及び学校関係の授業などもあり、利用者が増えております。

先般、青森で開催されました日本ジュニアカーリング選手権大会において、妹背牛町出身の選手が所属している札幌学院大カーリング部が優勝し、世界ジュニアBカーリング選手権の出

場権を獲得、23カ国の強豪ひしめく大会で善戦しました。夢であるオリンピック選手の輩出がより現実味を帯びてきております。

今後も選手の育成をはじめ、「カーリングのまち妹背牛」をブランドに、ふるさと納税による宿泊・スポーツ体験満足コースなどカーリングの魅力を提供し、全国的なPRを展開してまいります。また、夏の遊水公園うらら、パークゴルフでの交流人口の増加を図ってまいります。

安心して暮らせる福祉と健康のまちづくり

本 高齢者福祉、介護サービスの充実について

町の高齢者人口は年々増加し、今後高齢化現象は更に加速すると見込まれ、一人暮らしや高齢者世帯、さらには認知症高齢者の増加が懸念されています。高齢者のニーズや生活実態に基づきながら、各種の福祉・介護サービスを提供し、要介護状態への防止策を講じ、本年度

も引き続き、「わかち愛もせうしひろば」を利用した介護サービスの情報提供など地域の包括的なケアシステムの構築を図ります。

近 児童福祉、子育て支援の充実について

また、在宅福祉の向上を目指して、高齢者世帯等を対象とする水道料金及び灯油等の暖房用燃料費の一部助成を継続してまいります。

近年、少子化や核家族化などの影響から子育てに対する環境が変化する中、保健師による乳幼児の家庭訪問・養育相談や健診等、母子保健の充実に努めてまいります。

子育て支援策としては、水道料金の一部助成や高校生までの医療費無料化、任意予防接種の助成、特定不妊治療、一般不妊治療にかかる費用の一部助成についても継続してまいります。

また、認定子ども園妹背牛保育所での保育サービス、学童保育、一時保育や在宅児親子対象の「遊びの教室」の開催など安心して暮らせ

る子育て環境の推進に努めてまいります。

平 健康づくり・医療の充実について

さらに産前産後の不安等を解消するため、深川市立病院と連携しながら助産師による相談や産後ケア並びにヘルパーによる育児や家事を支援する養育支援事業に新たに取り組みます。

成27年度に策定した健康増進計画改訂版に基づき、町民一人ひとりが自らの健康に関心を持ち、主体的に健康づくりに取り組むことができるよう、支援していくとともに、この問題を抱えていても暮らしやすい地域づくりを目指し、努力してまいります。

今年度の重点事業として健康・医療情報等のデータを活用し、生活習慣病対策の評価と見直しを進めてまいります。特定健診や各種がん検診につきましても、健診メニューや健診機関の追加など受診しやすい体制整備により、受診率の向上を目指してまいります。



様々な大会が開催されたカーリングホール



愛好者で賑わうパークゴルフ場



子ども達で賑わう遊水公園うらら

また、健診後のフォローを徹底し、生活習慣病をはじめとする各種疾病の発病や重症化の予防に努めてまいります。地域医療の中心に位置する妹背牛診療所につきましてもは医療法人と連携し、医療水準の維持・向上に配慮しながら健全運営に取り組んでまいります。

地域福祉、心身障がい者福祉の充実について

社 社会情勢や町民の価値観・生活意識の変化に伴い、福祉に対するニーズが多様化する中、地域福祉の中核を担う社会福祉協議会をはじめ、民生委員、町内会など関係機関と連携のもと、全町民が等しく豊かさを享受し、生き生きと暮らせるまちづくりを目指します。

また、障害者差別解消法の施行により、障がいへの理解と啓発に取り組み、障がい者の方が安心して暮らせるまちづくりを目指し、地域社会で自立した生活ができるよう、各種福祉サービスの適切な提供と社会参

加の促進に努めます。

国民健康保険事業について

国 国民健康保険は、国民皆保険制度の中核を担い、地域医療の確保と地域住民の健康の保持増進に大きく貢献してきました。

しかしながら、急速な少子高齢化の進展や疾病構造の変化などに伴う医療費の増加に加え、社会経済の低迷などにより低所得者の加入が多い国民健康保険財政は極めて厳しい状況となっています。

このような中、国民健康保険の財政基盤を強化するため、平成30年度に運営主体を市町村から都道府県に移すことを柱とした医療保険制度改革関連法の成立により、国民健康保険を取り巻く状況は、大きく改革されることになりましたが、国民健康保険は、国民皆保険制度の基盤として、健全かつ安定的な運営を確保する必要があります。今後とも国の動向を注視し、その役割を充分に果たしていけるよう、

全力で取り組んでまいります。

本年度は、市町村標準システムへの導入やデータの移行など、国民健康保険の都道府県単位化に向けた準備作業が本格的にスタートします。

また、4月からは保険料軽減判定所得の引上げなども予定しています。

なお、平成29年度の国民健康保険料率については、所得や医療費などの確定後に国民健康保険運営協議会でご審議いただき、改めてご提案申し上げたいと考えております。

介護保険事業について

介 介護保険制度は、できる限り自立した日常生活を送ることができるよう、保健、医療、福祉サービスの総合的・一体的に社会全体で支えていく仕組みとして、平成12年度にスタートしました。

全国的に高齢化が進む中、本町においても介護認定を受ける方は年々増加傾向に

あり、介護保険の果たす役割は重要になっていきます。

また、見守り、安否確認、外出支援、家事援助、介護者支援等といった生活支援の必要性が増加してきており、ボランティアやNPO、民間企業等の地域の多様な主体が提供する生活支援サービスの体制整備が求められています。

本町においても、わかち愛もせうしひろばを活用した、住民が主体となった通所サービスがスタートしました。本サービスの実施により高齢者自身の介護予防、生きがいづくりの推進を図ると同時に、活躍の場を創出できるよう、新たな生活支援サービスを検討し、みんなでも支え合う地域づくりの実現を目指します。

今後の更なる高齢化の進展に対応するため、現在検討されている介護保険制度の改正内容に留意しながら、地域に根ざした計画を策定し、医療・介護・予防・生活支援・住まいの5つのサービスを一体化して提供する「地域包括ケアシステム」



中学生が乳幼児とふれ合った「いのちの授業」



わかち愛もせうしひろばでのお楽しみお食事会



新入学児童へ傘のプレゼント

の構築に向けた取り組みを展開してまいります。

安全で生活しやすい快適なまちづくりについて

環境衛生について

本

町から排出されたごみは、すべて北空知衛生センター組合に搬入し処理されており、資源ごみは、処理業者に売却したうえでリサイクルが行われ、生ごみは、同組合のバイオガス化施設で処理されています。不燃ごみ・粗大ごみは、解体・選別し、破碎処理後の残渣は、生ごみ残渣とともに北空知衛生施設組合の最終処分場へ搬入され、燃えるごみは、中・北空知廃棄物処理広域連合で適切に焼却処理されています。

また、北空知衛生施設組合の最終処分場は、使用期限が平成38年度と見込まれており、残容量の推移を把握しつつ、地下水検査を継続しながら環境保全に努めています。環境衛生については、スズメバチ等の

巣の駆除助成事業を本年度も継続し、被害を未然に防ぎます。

さらに、地区住民のエキノコックス症健康診査や食中毒予防の徹底、パソコン回収の実施による不法投棄の防止、春の清掃の無料ごみ回収等により、環境美化運動の推進に努めてまいります。

上下水道等の充実について

昭

和60年に供用開始した簡易水道事業は、平成29年1月末現在1,254戸が加入していますが、人口減少による加入者、使用量の減少に伴い、料金収入が減るなど経営に影響を与えています。また平成28年度より、3カ年計画で電気計装機器の更新を実施し、経営の効率化を図り、安全・安心な生活水の安定供給と経営基盤の安定に努めてまいります。

農業集落排水事業は、平成29年1月末現在1,075戸が加入していますが、簡易水道事業同様、料金収

入が年々減少し、一般会計からの繰入金に依存しているため、平成28年度より10年ぶりに農業集落排水使用料の10%値上げ改定を行い、一般会計からの繰入金の抑制に努めています。また、処理施設については平成6年に供用開始してから23年が経過し、適正な維持管理が行われているにもかかわらず、経年劣化などにより処理機能等に障害がでている状況です。そこで平成27年度から5カ年計画で機器等の更新を実施して、機能強化を図るとともに、今後も施設の適正な維持管理に努め、機器更新時期の延命に努めてまいります。また、個別排水処理施設については、今後も農業用水域の保全に努め、健全な事業運営を行ってまいります。



住宅施策について

現

在管理しております町営住宅は、公営住宅196戸、特定公共賃貸住宅4戸、単身勤労者住宅8戸、勤労者住宅7戸の計215戸であります。

平成28年度に策定しました公営住宅等長寿命化計画に基づき、現在は稲穂団地の建替え事業を進めており、本年度は稲穂団地A棟の建設工事を予定しています。

今後も計画的な公営住宅の建替えと維持改修を進めてまいります。また、住宅を長期にわたり使用できるように適正な維持管理に努めるとともに、住宅使用料の収納率向上に努めてまいります。

消防・救急の充実について

本

町では、昨年2月、3月と立て続けに2件発生し、損害額が約9,000千円に上るといった大きな火災がありました。これら火災を教訓に、以後、約1年間無



女性に人気だったごほうび講座



盛り上がった福祉レク大会



特定検診で疾病予防と早期発見

火災が続いておりますこと
は、消防職・団員をはじめ、
1区連合会の協力による各
種の火災予防の啓発と、消
防団後援会の後援活動があ
つてこそと、深く感謝と敬
意を申し上げるところであ
ります。

地域における消防・防災
のリーダーとして、日夜を
問わず地域に密着し、町民
の安全と安心を守るという
重要な役割を担っている消
防団については、今後も定
数50名の維持確保を図ると
ともに、定期的な訓練や研
修による技術と知識の習得
で、機動力のある消防・防
災活動を展開してまいりた
いと考えております。

さて、大正7年に「妹背
牛消防組」として設置・発
足された消防団が平成30年
に創設百年という節目を迎
えることとなりました。こ
れまでの一世紀という長い
歴史にあつて、歴代団長さ
んをはじめ、多くの団員さ
んが消防・防災行政に多大
なご尽力とご功績を残され
たことにあらためて感謝し
つつ、記念誌の発行をはじ

め記念式典挙行のための準
備を取り進めてまいります。

救急業務につきましても、
平成28年の本町に係る出場
件数は105件であり、前
年比26件の増加で、その多
くは急病による要請であり
ました。1日平均0.29
件と高齢者比率の上昇とと
もに、救急要請も増加傾向
にあるものと認識しており、
今後も救急要請に迅速かつ
確実に対応し、町民の生命
を守ることはもとより、地
域の安全と安心の確保を図
ってまいります。

防災・治水の充実について

昨年は、8月17日から
30日の僅か2週間に

おいて、4つの台風が立て
続けに上陸・接近し、道内
各地では河川の氾濫や土砂
災害などにより、農作物へ
の被害はもとより、道路や
鉄道の寸断、さらには死者・
行方不明者も出るなど、自
然災害の脅威を目の当たり
にし、恐怖さえ感じたこと
ろであります。

本町においては、幸いに

も大きな被害には至りませ
んでしたが、日頃からの防
災に対する意識と備えが重
要であると考えています。

昨年10月に、北海道開発
局が公表した千年に一度の
降雨（累加総降雨量361
mm）による雨竜川の氾濫予
測では、本町のほぼ全域が
浸水するとの想定であつた
ことから、地域防災計画で
の避難計画をはじめ、現有
洪水ハザードマップの見直
しに着手するなど、町民の
生命を守ることを第一義と
した防災体制の構築を図つ
てまいります。

また、防災に対する平時
からの心得や備えの大切さ
を引続き、町民に周知する
とともに非常用備蓄品とし
て食料品及び避難所での敷
きマット等を計画的に購入
していく予定としていると
ころであります。

さらに、平成30年度の整
備をめざし、非常用電源（自
家発電機）及び、これら72
時間稼働させることが可能
な燃料備蓄タンクの設置に
ついて調査・研究を進め、
機材の設置が早期に図られ

るよう努めてまいります。

治水対策につきましては、
大鳳川における沿岸樹木の
伐採が喫緊の課題となつて
いることから、引続き河川
事務所等関係機関に要請し
ていくとともに、内水対策
については、大雨時、河川
の増水防止を図るため、田
んぼに溜まった水をそのま
ま溜め置く「田んぼダム」
への協力を土地改良区に、
また、内水排除に係る水中
ポンプの設置稼働について
は、本町建設業協会と、そ
れぞれ連携を密にしなが
ら、洪水災害の未然防止に万全
を期してまいります。

交通安全・防犯活動の充 実について

警察庁の発表では、平
成28年における全国
の交通事故死者数は3,9
04人、前年比213人の
減少で、北海道においても
158人で、前年比19人の
減少となつたところであ
ります。

死亡者数は年々減少して
いるものの、死亡者に占め
る65歳以上高齢者の割合は



旗の波運動で交通安全を呼びかける



消防演習で訓練の成果を披露する消防団員



平成28年1月に完成した「北斗団地D棟」

54.8%と、毎年着実に増加しており、高齢ドライバーをはじめ、高齢者を事故から守る対策が急務であると認識をしています。

先般実施の町政懇談会において、数地区より高齢者の運転免許証の自主返納への助成あるいは特典付与の考えについてご意見が寄せられました。自主返納へのインセンティブ（動機付け）としての助成や特典付与は有効であるものと考えますが、免許保有高齢者にとつての車は、買い物・病院・訪問など、日常生活の足であるとともに、運転できるといことが自立の象徴となつていいることを鑑みると、慎重に検討していく必要があると考えております。

施行後の推移を見極めつつ、高齢化率が44%を超える本町の交通事故防止に向けた活動を、関係機関・団体の指導と協力をいただきながら今後も積極的に展開してまいります。

交通事故死ゼロの継続については、今後も町民総ぐるみの運動と願いにより、一日一日を着実に積み重ねていきたいと考えております。

防犯活動につきましては、振り込め詐欺をはじめとした特殊詐欺での被害が全国的に後をたない現状にあります。深川警察署管内においても、平成28年に5件発生しており、特に行政機関職員を装った還付金詐欺が増加傾向にあることから、今後も警察からの情報を基に、妹背牛駐在所と連携を密にした中で、注意喚起の啓発に努めてまいります。

警察をはじめ防犯協会や民生児童委員、町内会など関係機関・団体との連携を強化し、犯罪や事故のない安全で安心な地域づくりに努めてまいります。

道路、雪対策、公共交通の充実

町道は、修繕計画に沿ってオーバレイ工法による舗装修繕を行い、今後も適正な管理と維持補修に努めてまいります。

橋梁につきましては、橋梁長寿命化修繕計画に基づき、予防的な修繕を図り、適正な管理を進めてまいります。

冬期間の除排雪対策については、社会資本整備総合交付金事業を活用し、除雪機械の計画的な更新に取り組み、生活道路の安全確保や救急車両の通行確保に努めてまいります。



安全で生活しやすい快適なまちづくりについて

人口減少が進む本町に於いて、子育て世代が生きやすく、育てやすいまちづくりを目標に魅力的なオンリーワンのまちづくりを目指して積極的に施策を展開してまいります。

新年度より、子育て世帯を対象とした支援対策の新規事業として、「子育て世帯応援米」（地元産の良質・良食味米の新米20kg）を贈呈する事業を実施いたします。

今後も「妹背牛町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、移住定住支援事業・子育て支援事業など施策を継続するほか、医療・福祉・教育など多岐にわたる分野において地域の元気づくりに向けた諸施策を着実に積み重ね、「人輝き、笑顔あふれるまち・もせうし」、「みんなで支え合う福祉と協働の町づくり」を目指し、町民と共に諸施策を実現し、まちの活力を見出すため努めてまいります。



スノーフェスティバルでの宝探し



火災予防を呼びかける防火パレード



交通安全祈願